

## 平成 22 年度事業計画書

自：平成 22 年 4 月 1 日

至：平成 23 年 3 月 31 日

### I. 基本方針

引き続き日本の経済活動の低調傾向が継続されると想定されるが、青少年対象事業の積極的な展開と、国策に応じた国際・国内観光事業への新たな取り組みを通じて、一般の人々へのさらなる航空思想の啓発普及とグライダー文化の伝承、及び北海道並びに滝川の発展に果たすべきグライダーの役割を全うするよう尽力する。

また、組織や人員の入れ替わり時期にあたることから、内部体制強化の 1 年とする。

### II. 内部体制

- (1) 各部門のスタッフが入れ替わりの時期にあたるため、各部門ともに新たな体制の構築を図る。
- (2) 新たなボランティア・スタッフの獲得に向けて、広くリサーチする。
- (3) 新公益法人への申請を行うとともに、公益社団法人化に向けての新たな体制を整える。

### III. 実施事業

#### 1. スカイスポーツを通じた青少年の健全育成に関する事業

学校教育及び市外航空青少年団体との積極的な連携を図る。

- (1) 市内・外の学校を対象とした体験学習の受入  
市内 グライダー授業未実施校（小中学校）への啓発を強化して、参加校の増を図る 時期：6 月及び 10 月  
市外 体験学習・施設見学の実施 時期：随時
- (2) こどもの日特別企画「こどもたちに大空のプレゼント」の開催  
道内のこどもたちを対象に、体験搭乗や紙飛行機教室を実施する。  
開 催 日：5 月 5 日（水・祝）  
対 象：道内の小学生  
予定人数：55 名
- (3) ジュニアグライダークラブの活動  
操縦練習に力点をおき、クラブメンバーの拡充を図る。
- (4) 青少年他団体を対象としたスカイスポーツ体験学習会の支援  
日本宇宙少年団札幌分団、千歳航空少年団及び新たなソースを開拓する。

## 2. グライダーの科学技術及び操縦技術・整備技術等の伝承に関する事業

初心者から指導者までの広範にわたる一般の人々及び愛好者に対して、技量や要望に応じた各種の魅力あるメニューを実施して、飛行技術・整備技術の伝承を図る。

### (1) 各種操縦に関する指導

#### ① グライダースクール

シーズン中の平日に随時実施する

#### ② サマートレーニングコースを8回実施する

第1回：6月28日～7月 3日 第5回： 8月30日～ 9月 4日

第2回：7月 5日～7月10日 第6回： 9月13日～ 9月18日

第3回：8月 2日～8月 7日 第7回：10月 4日～10月 9日

第4回：8月23日～8月28日 第8回：10月12日～10月16日

#### ③ クロスカントリー・キャンプ

6月、9月に強化週間を定め、積極的な指導を行う

#### ④ グライダーキャンプの受入

大学生及び社会人の合宿誘致を図る。

# 1 大学生・新社会人対象のユースキャンプ 8月9日～8月13日

# 2 北海道大学及びOB会 5月及び10月頃

### (2) 各種受験に関する指導

#### ① 学科試験及び実地試験対策講習会の開催

対象資格：自家用操縦士（滑）上級・動力

実地試験予定時期：7月及び10月

#### ② 航空従事者試験官の技量拡張訓練受け入れ 6月頃

#### ③ 日本滑空記章、国際滑空記章に関する指導及び試験の実施

### (3) 各種講習会の実施（講師派遣）

#### ① 認定安全講習会： 自家用操縦士対象 4月3日（札幌）

#### ② フライトセミナー：愛好者対象 5月～10月（必要に応じて、随時）

#### ③ スカイスポーツ教室：一般対象 （社）北海道スカイスポーツ協会と連携

### (4) 国際交流事業の推進

#### ① 教官の派遣

冬季間、南半球を訪れる日本人に対し、ニーズに合致した教育支援を現地グライディングセンターと協同して実施するとともに、滝川における国際選手権開催の可能性を探る。

期 間：平成22年12月～平成23年2月、各3週間程度

派遣先：オーストラリア国及びニュージーランド国

対象者：教官3名

#### ② 曳航パイロットの招聘

各種飛行事業を円滑に行うために、曳航パイロットを招聘する。

期 間：7月下旬～9月中旬、7週間

招聘先：オーストラリア国

- (5) 道内外の滑空団体への支援  
北海道滑空協会への協力  
講習会への講師派遣（指導者講習会、安全セミナー）

- (6) たきかわスカイパークを利用する航空機に対しての整備支援

### 3. スカイスポーツを通じた地域社会の健全な発展に寄与する事業

滝川市及びたきかわ観光協会と連携して、「空」をテーマとした体験型観光事業を推進するとともに、地域振興に寄与する事業の展開を積極的に図る。

- (1) スカイスポーツイベント「サマースカイフェスタ 2010」の開催

開催日：7月25日（日）

共催：滝川市

動員目標数：4,000人

- (2) 観光客等の受入

フライトシーズン中、体験観光飛行を積極的に受け入れる。

① インターネットによる予約システムの活用・拡充（現在3社）

② 中華圏の富裕層を対象とした観光プログラムの開発（札幌を拠点とする中国旅行エージェントとのタイアップ）

③ 滝川市、（社）たきかわ観光協会及び中空知エリアの体験観光施設等の体験観光プログラムと連携した事業の展開

④ 圏内宿泊施設と連携したプログラムを提案し、販路を開拓

- (3) グライダー等による体験飛行会の実施

① 滝川市民対象

実施期間：7月21日（水）～7月25日（日）

予定人数：500名

② 一般市民対象

実施期間：4月中旬～11月下旬の間、随時

予定人員：1,200名程度

③ HOSPA 主催グライダー体験飛行会の支援

実施予定日：6月下旬の1日

予定人員：20名程度

- (4) 「そらぷちキッズキャンプ」の支援

「そらぷちキッズキャンプ」が実施するサマーキャンプのスカイスポーツ体験プログラムやツアープログラムを担当する。

開催日：8月中旬（予定）

- (5) イベント支援

道内各地で行われる航空祭に積極的に参加し、グライダースポーツ及び「スカイスポーツのまち滝川」の周知を図る。

① 千歳航空祭

開催日：8月8日（日）

場 所：航空自衛隊千歳駐屯地

主 催：航空自衛隊

支援内容：地上展示

② 2010 北海道スカイスポーツフェア in 北見

開催日：8月29日（日）

場 所：北見農道離着陸場（北見市）

主 催：（社）北海道スカイスポーツ協会

北見市スカイスポーツフェア実行委員会（仮称）

支援内容：飛行展示及び地上展示

4. グライダー文化の振興に関する事業

全国の古典機マニアと連携して、国内唯一の古典機専用の修理・展示・飛行を総合的に行える施設を整備するとともに、世界の古典機クラブとの連携を模索する。

5. スカイスポーツに関する調査研究

スカイスポーツ関係情報の収集・発信を行うとともに、スカイスポーツ機材や制度の調査研究を行う。

(1) スカイスポーツ関連の情報収集

海外のグライダー界の状況を、国内にあっては愛好者の動静を重視し、情報の提供においては、あらゆる機会・媒体を捉えて、事業内容を中心として国内外を問わず積極的に発信する。

① 最新の情報、一般の人にも認知されやすい内容に変えていく

② パンフレットの活用、観光業者との連携

アジア観光客をターゲットに、ニセコ・旭川エリアなどの観光先進地域との連携を図る。また、新たな観光プログラム開拓として、外国人による航空機の操縦練習許可に向けて制度改革の可能性を模索する。

(2) スカイスポーツ機材・制度の研究

数年後の事業化を視野に、継続的に調査を進める。（平成21年度より継続）

① 環境対応型動力グライダーの開発

日本の持つ最先端環境技術を駆使して、世界に先駆けてクリーンで低騒音な実用型航空機の開発を目指す。また、開発過程における新エネルギー駆動システムを自動車等の関連産業に売り込み、以って地域の活性化へとつなげる方策を研究する。

② 新たな収益事業の創出

スカイスポーツ以外の地域に根差した特色ある事業を調査・研究する。

6. スカイスポーツに関する機材及び施設の整備

平成 21 年度から継続の、下記機材の改修・整備を図る。

- (1) 自動車用ガソリン対応エンジンへの改修（曳航機）
- (2) 高高度航空管制用自動応答装置（トランスポンダー）の装備（グライダー）

7. その他公益目的を達成するために必要な事業

- (1) たきかわスカイパークを利用する航空機に対して、フライトサービス局の運用や気象情報の提供等、必要な飛行支援を行う。
- (2) スカイパークの施設管理・運営  
「たきかわスカイパーク」の指定管理者として、施設運営及び事業を展開する。

IV. 航空安全

スタッフ、会員及び飛行関係者の安全意識を刺激して、危険に対しての的確な見積りと確実な基本動作を実施させて、航空無事故を継続する。

無事故目標： 4, 381日